

九州地区総合技術研究会 2024 in 大分大学 参加報告

システム情報技術系
中村 喜寛
生産技術系
土岩 寛侑

1. 研修期間

令和6年2月29日（木）～令和6年3月1日（金）

2. 主催

国立大学法人大分大学

3. 研修目的

九州地区総合技術研究会は、九州地区の国立大学法人、国立高等専門学校および大学共同利用機関の技術職員による発表と討論を通じて技術の研鑽、向上を図ると共に技術職員相互の技術的、人的交流を深めることを目的として開催されている。

4. 研修日程

2月29日（木）

10:00～10:10 開会式

10:20～11:50 【特別講演Ⅰ】「多様なリスクにどう向き合うか」
大分大学 理工学部長 教授 小林 祐司 氏

13:00～14:40 ポスター発表

15:00～17:00 シンポジウム「技術職員ビジョン2040」

第一部：【講演】

①琉球大学 総合技術部 勢理客 勝則 氏

②佐賀大学 総合分析実験センター 森 加奈恵 氏

③大分大学 理工学技術部 上ノ原 進吾 氏

第二部：パネルディスカッション

①「技術職員が幸せに働くために、個人と組織はどのような姿を目指すべきか」

②「技術職員を未来に誇れる、憧れの職業にするため我々はどう行動すべきか」

3月1日（金）

10:00～11:30 【特別講演Ⅱ】

「工学によるモノづくりと縁によるコトづくり～竹の加工技術開発を起点とする起業と将来～」

大分大学 理工学部理工学科 教授 衣本 太郎 氏

13:00～16:50 口頭発表

17:00～17:10 閉会式



図 1 九州地区総合技術研究会 2024 in 大分大学

5. 研修報告

システム情報技術系 中村 喜寛

久しぶりにオンラインで九州地区総合技術研究会へ参加する事ができた。

今回の特別講演では、「多様なリスクにどう向き合うか」及び「工学によるモノづくりと縁によるコトづくり」という題目で、非常に興味深い講演を聞かせてもらった。特に鹿児島でも問題になっている竹害については、初めて聞く内容も多く、大変勉強になった。

シンポジウムでは、複数の大学の技術職員の方が組織や魅力ある技術職員について考えている事を知ることができ、本学の技術職員にも是非考えてもらいたいテーマであると感じた。

ポスター発表や口頭発表に関しても、他分野の技術職員の業務や活躍を知ることができ、いい刺激になった。特に、積極的に地域連携活動を行っている情報は有益であった。

また、九州地区総合技術研究会の協議会に出席し、今後の開催校や開催方法等について協議した。やはり、会場確保や予算確保の問題もあり、決定まで至らなかった事が残念だった。

今回、他大学の技術職員と直接話す機会を持つことで多くの情報を得ることが出来た。今後は、若い職員に積極的に参加・発表して貰い、他大学職員との交流で刺激を受けて貰えればと思う。

生産技術系 土岩 寛侑

コロナウイルス感染症の影響で、採用されてからオンラインによる学外の研修に参加する機会に恵まれなかったが、今回初の参加の機会が得られた。

講演で触れられていた、リスクマネジメントについては、普段の業務におけるセキュリティ意識などの問題にも当てはめられる興味深い物であった。最初から完璧な答えを持って備えるのではなく、柔軟に対応できる力こそ日々変化するリスクに対応するために必要な力だと思った。

ポスター発表では、特に地域貢献活動に関する発表を重点的に聴講した。大学によって、取り組み方は多種多様であった。例えば、同じ「出前授業」でも組織の形によって対象・場所・時期・内容などが多種多様で、本学の取り組み方における強みや弱点などを再認識することができた。

今後もこのような機会が得られる際は聴講だけでなく、発表もできるよう、日々の業務の気づきや取り組みに励んでいきたいと思う充実した2日間であった。